



# やなぎっ子

さいたま市立片柳小学校

TEL 048-683-3174

FAX 048-683-8971

<http://katayanagi-e.saitama-city.ed.jp/>

## 情けは人のためならず ～笑顔の力～

校長 萩原 哲哉

まだまだ凍える冬が来る-----そう覚悟しているうちに、日差しが明るくなり、あちらこちらに花の影が見えるようになりました。学校の玄関にも、ボランティアさんによる紅梅が生けられ、学区内では早咲きの桜（河津桜でしょうか）も見かけられます。桜の開花予想もお彼岸前の3月中旬。この分だと卒業式に、満開の桜が彩りを添えてくれそうです。

先日、「おやじの会」の方々に、学校図書館の旧カウンターを、きれいに補修し、新しい色（空色）にお化粧直ししていただきました。春一番が吹いた作業当日。低気圧が移動するタイミングで気温が高くなったり、急激に涼しくなったり。そんな中、朝から数時間をかけて、手作業のやすり掛けから、ペンキ塗りまでを、お世話いただきました。

その数日前には、「防犯ボランティアさん・交通指導員さん感謝の会」が行われ、日頃子どもたちを見守っていただいている防犯ボランティアさんや交通指導員さんに来校いただき、子どもたちから御礼をお伝えする場もありました。

他にも片柳小学校には、読み聞かせをさせていただいている図書ボランティア「ハナミズキ」さんや、前述の生け花ボランティアさん、PTAによる花植えボランティア活動など、大勢のボランティアの方々がいらっしゃり、学校を支えていただいています。足しげく学校に通っていただいているPTA役員の方々や、各委員会委員の方々も、「無償の助力」という面では、もちろん同じです。

これらの方々に共通している点があります。それは「笑顔」。どの方も、どの場面でも、実に素晴らしい笑顔でさまざまなお手伝いをしてくださっているのです。いくら「情けは人のためではなく、自分のため」と言っても、なかなかできることではありません。ありがたさと申し訳なさを感じていると、さすがは、昨今の科学。これを科学的に証明した研究があることを知りました。

スタンフォード大学の社会心理学者・ジェニファー・アーカー博士らによる「人々が心から実感できる幸せについて」の研究によると、人は自分のために何かするよりも、誰か・何かのためによいとされることを行い、それを達成できた時に最も大きな幸福感を得ることが検証されたそうです。漠然とした「よいこと」や環境保護などを目指すのではなく、具体的に人のためになるような行動をとることで、自分の幸福度が高まるそうです。例えば、そこにいる誰かを笑顔にする、リサイクルする物を増やす、といったものがそれにあたります。別の研究では、「一日に五つのよいこと」をした人は、何もしなかった人よりも幸福度が上がることや、ボランティアに従事している人は心の病気になりにくく幸福を感じる度合いが高くなる、という結果もあるそうです。

こう考えて来ると、各ボランティア活動やPTA役員・委員の方々など、片柳小学校のために力を尽くしてくださっている方々の、素晴らしい「笑顔の秘密」が、わかった気がします。

それにしても、科学的に実証されていない時代から、先人は経験的に「情けは人のためならず～自分が幸せを感じるための行為であること」を経験的に理解していたのですね。先人の英知に敬意を表するとともに、片柳小学校を支えてくださるすべての方々に、改めての御礼を申し上げたいと思います。